

今、何故、KANプロジェクト支援なのか！！

KANプロジェクト支援活動のマスコミへのPRをする事になり、長妻昭氏に相談し、下記のようなPR文と活動中の写真を添えて、11月17日都庁記者クラブ（新聞テレビ23社）に持参しましたので、会の活動の一旦として、ご報告致します。

1998年11月17日

都庁記者クラブのマスコミ各社各位

今、何故、KANプロジェクト支援なのか！！

平成維新を実現する都民の会代表治田桂四郎
本日は、私達の会のKANプロジェクト（菅直人を「私たちの首相候補」に指名しよう運動）支援活動状況について、ご報告させていただきます。

御存じのように自民党政権による諸改革は、難しいと思います。即ち、この国を良くする改革のために政権交代が、必須です。私たちは、小選挙区制の下で政権交代を実現するには、菅直人氏を首相にする事を野党各派が、協議し決定し、勿論、共有できる政策についても4年とか期限付きで協定し、次の総選挙に望めば、十分な勝算があると思います。同時に、市民レベルでの幅広い支援ムードが確立されれば、より確実性が、増します。最も、菅直人氏は、既に、参議院に於いて、首相指名を現実を受けた訳ですが、実際に、首相になるには、未だ、時間もかかり、何といっても市民レベルでの菅直人コールの大きな盛り上がりが必要です。

平成維新東京代表 治田桂四郎
一説に、長銀問題で、チャンスを選したとの見方もありますが、まだまだ、チャンスは、あります。それに備えて、私たちは、「菅直人を首相にする」運動を続けています。毎日曜日の午後4時から1時間、当会のメンバーが、数人で、PRのビラ配りを続けています。口頭で訴えながら、ビラを配り、同時にFAXをするよう呼びかけています。

*KANプロジェクト…新「民主党」統一大会の日（1998年4月27日）に名古屋大学の後（うしろ）教授…「オリーブの木」の著者等により立ち上げられたものですが、これは、直接民主党を支援するものではなく、菅直人をリーダーとしての野党・市民結集を目指す運動です。私たちは、市民レベルでの広がりを目指しています。

*平成維新を実現する都民の会…4年前の4月に大前研一氏の平成維新の会が解散した後に会員同志で結成した市民運動の会（大前氏の考え方を実現することを目的とするも現在は、大前氏と直接的な関係はない。）

*治田の略歴1961年3月中央大学法学部法律学科卒業、エーザイ株式会社入社、1997年7月より平成維新を実現する都民の会代表（現在2期目）、1997年9月エーザイ株式会社定年退職。

*治田の連絡先…練馬区南大泉3-27-18-303

TEL&FAX 03-5387-4676

会の名前に思う

冒頭からやや過激な表現ですが、会名から「平成維新」の言葉が消える時は、平成維新が成ったと言うことで、会を脱会する／解散する時と思っています。

会への直接的な活動は最近していませんが、自分の行動は生活者主権に則って努力しているつもりです。会発足直後に入会した私は、当初からまず自分の生き方が生活者主権であるべきだと主張して来ました。自分から家族・仲間へとその輪を少しずつ広げていくことが基本であると思います。さらに枠を広げて、「住民参加、さらには企業や学校も参加するムラ・マチづくり」に結びつけて行くことが肝要です。選挙運動は、会の存在と別の次元で捉えるべきです。昔、大前さんに此の旨レターを出したことを思い出しました。

前号でも、「政治活動は個人が別の名前でやるべきだ」との意見が出ていましたがその通りで、この議論は5年前にもあって結論が出ていたはずで、その後の状況変化は特に無いと思います。

西多摩郡日の出町 石黒広洲
政策を考えるのが主旨のはずの会名には「平成維新」を含ませる、そして、「手段である選挙活動は別に行う」の原則を守りましょう。

皆さん、「自分の生き方をどう変えるのか」をもっと自律的に考え、更に新しい日本のムラ・マチをどうしたいのか・自分が何をするのかに乗せてまず実行したいですね。全く無関係とは言いませんが、無力化している、いわゆる政治には頼れません。どうやったらムラ・マチが「自立」出来、「内発的発展」を遂げ、「国際化」が可能になるのかに就いて、ビジョンを描き、プロセスに落とし込みましょう。

もし政治的な要素が必要だとしたら、それは「相互学習のための情報公開」と「集団の意思決定を得るための合意形成メカニズムの発見」だと思います。

ゆっくりした現実の過程を体現するのは苦しいことですが、「他律から自律へ」そして「提供者から生活者へ」と精神的文化を変えるのが「平成維新」であると考えます。ちなみに、明治維新は、善悪は別として「日本（東洋）から西洋」に文化の主体が変わったのがポイントではないでしょうか。